

プロジェクト報告書

団体名 青梅精神障害者ビジネスグループ「ぷーIT」

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

当事者ビジネス:ハウスクリーニング事業における人材育成(バックヤードチーム)の実施、継続

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

※応募申請書に記載のもので可。

精神障害者を取り巻く、就労環境は依然として厳しく、偏見であったり、配慮のなさから、就労を継続することは困難の多い現実がある。これまで、私たちビジネスグループは、ハウスクリーニングの仕事を通じ、障害を持ちながら働くためには、ビジネススキル、ビジネスマナー等を基礎からトレーニングし、人材育成をすることが、急務であると痛感し、仕事の準備や、道具のメンテナンス、車の洗車などの裏方作業、と現場での実践の両面で、人材育成を継続していく。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のもので可。

バックヤードチームの実践は月1回行い、道具の手入れ、洗濯、倉庫の整理、車の洗車、パンフレットの製本などを行った。また、トレーニング中の人材も、実習という形で、体調、体力に合わせた時間設定で、ジョブコーチの指導の下、積極的に現場参加してもらい、経験を積み、少しずつ、技術の、集中力を付けていった。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

バックヤードチームにおいても現場においても、ミーティング、反省会を重視し、メンバーそれぞれの課題に対して、具体的な目標設定をし、全体でもそれを共有した、ジョブコーチも指導に当たっての工夫について、常にコミュニケーションを密にし、様々な場面において改善を重ねていった。

何よりも仕事の成果については、お客様の評価を重視した。

障害者グループホームの入退去清掃においては、障害を持ってこれだけ働けるということにおいて、そこに入居されている方にとっても良い刺激となっていると評価され、私たちのモチベーションにもつながった。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

実践を通し、メンバー各自が、各々の課題を自覚できるようになり、自信がついてきた、仕事の技術や精度が上がれば、それが自分たちの収入アップにつながることで実感でき、モチベーションが上がっていった。

メンバーの技術向上は、ジョブコーチのとても自らの役割意識を向上させる効果があり、相乗効果により、仕事の質を向上させることが出来た。

今後、適正な人件費等、必要な経費を捻出し、独立採算の取れる、事業にしていくには、いまだ多くの課題は残されている。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

○参考資料あり・特になし